

## 東郷湖周を巡る「ウォーキングの聖地」 としての着地型観光を開発

独立行政法人 中小企業基盤整備機構 経営支援部 経営支援課

土屋 真美

### 紹介事例の概要

|       |  |
|-------|--|
| 会社名   | 有限会社 望湖楼   |
| 認定区分  | 地域産業資源活用   |
| 認定事業名 | 東郷湖の湖周を舞台とする着地型<br>観光「ゆりはま Walking Resort」<br>の開発・販路開拓 |
| 認定日   | 平成28年2月3日  |

### ◆ ウォーキングを軸とした地域ブランド 化をめざす湯梨浜町

湯梨浜町は、鳥取県中部に位置する人口約17,000人の町である。町には東郷湖という風光明媚な湖があり、その湖底から湧き出る2つの温泉、はわい温泉と東郷温泉の旅館が湖周に立ち並んでいる。この湯梨浜町で、地元の旅館2社と食品製造会社、カフェの4社が共同で行う着地型観光「ゆりはま Walking Resort」が平成28年2月に地域産業資源活用事業計画の認定を受けた。

活動のきっかけは、湯梨浜町商工会が平成24年度から始めた「げんきウォーキングプロジェクト」である。プロジェクトでは、東郷湖周の7つのウォーキングコースの策定や特産の「野花梅（のきょううめ）」を使ったオリジナル商品の開発などを行った。

プロジェクトの開始から3年後、中小機構から地域資源活用事業のグループでの認定の紹介を受け、さらなる地域活性化への取組みとして認定をめざすこととなった。

### ◆ ノルディック・ウォークについて

認定後は、健康志向の高い中高年齢層や女性をターゲットにウォーキングを軸とした着地型観光の商品開発に取り組んでいる。

本事業では、ただのウォーキングではなく、2本のポールを使って歩くノルディック・ウォークによる健康増進を提案している。ポールを使うことで身体全体の90%の筋肉を活用でき、ポールを使わないウォーキングよりも消費カロリーが増す反面、両足にかかる負担は大きく軽減できるため、楽に効率よく運動することができる。

東郷湖周のコースは、平成25年に日本初の全日本ノルディック・ウォーク連盟公認コースに認定された。認定には、①高い運動効果が期待できる50mの標高差、②コース紹介やポールの貸出を行うウォーキングステーションの存在、③講習会を開催する公認指導員の常駐などの要素が必要だが、これらをすべて満たすコースは全国で唯一となっている。

### ◆ 町内の魅力を活かした観光商品づくり

本事業は以下の4社で構成されている。

温泉旅館の（有）望湖楼と（株）浅津苑は、ウォーキング体験と連携した宿泊プランの開発を担っている。食品製造会社の（株）プレマスペースは、梨や梅などの地元食材を活かしたスイーツやパンを開発すると共に、店内に足湯を設置し、ウォーキング客を癒す休憩所となっている。（合）ippo は日本初のウォーキングカフェ「café ippo」を運営しており、講習会の開催や



「café ippo」(合同会社 ippo が運営)

ポールの貸出など、町内に4カ所あるウォーキングステーションの一つとして機能している。

ウォーキングコースの一例を紹介しよう。参加者はまず「café ippo」でポールの貸出を受け、公認指導員からポールを使った正しい歩き方を教わる。その後は、東郷湖の眺めを楽しみながら湖周の観光スポットを巡っていく。その一つが倭文(しとり)神社である。この神社は、大国主命の娘・下照姫命(したてるひめ)が安産指導に尽力したことから安産の神様として地元の住民に親しまれている。その下照姫命がしばしば訪れては故郷の出雲国の方角を眺め、懐かしんでいたとされるのが出雲山展望台で、その見晴らしの良さから今も多くの人々が訪れている。景色だけでなく、湖周に7カ所ある足湯もウォーキング客を癒している。それぞれに七福神の名前がつけられており、温泉卵を作ることができる“たまごの温泉”が隣接している。ランチタイムには、(株)プレマスペースが営むパン屋「ぱにーに」のウッドデッキで素材にこだわった美味しいパンを味わえる。一日の終わりには、東郷湖畔に立ち並ぶ「望湖楼」や(株)浅津苑の営む「ゆの宿 彩香」などの旅館に宿



「ぱにーに 湯梨浜店」  
(株式会社プレマスペースが運営)



「ゆの宿 彩香」(株式会社浅津苑が運営)

泊。良質な温泉に浸かりながら、心も体もリフレッシュできる。このように、業種の異なる事業者が連携しながらウォーキングを軸とした魅力的な観光商品づくりに取り組んでいる。

### ◆ 地域ぐるみでの盛り上げりを

本事業の代表を務めるのは、(有)望湖楼の代表取締役社長・中島伸之氏である。望湖楼は550名収容の大型温泉旅館であり、湖上の露天風呂は圧倒的な眺望を誇っている。中島氏は「宿泊客の旅館での滞在時間が増えているため、周辺のアクティビティを充実させる必要がある。今は、望湖楼に宿泊するお客様が朝食前に湖周を少しウォーキングし、周辺の飲食店で朝食をとるというプランを作れないかと考えている」と語り、4社それぞれの魅力をつなぐことによって湯梨浜町の魅力がもっと観光客に伝わる工夫を模索している。さらに、「(湯梨浜町の)環境は整ってきた。この地域の人はいま前面に出て喋ろうとしないが、『この景色、他にないでしょ』って地元の人と言える雰囲気をもっと草の根から作っていきたい」と熱く語る。本事業が地域全体を巻き込みながらどう発展していくのか、今後注目したい。



有限会社 望湖楼 中島代表取締役